



「10月1日は東京湾の日」第1回 川柳&photo コンテスト

東京湾再生官民連携フォーラム 第1回 川柳コンテスト審査 短評

【コンテストの概要】

イベント名: 「10月1日は東京湾の日」第1回 川柳&photo コンテスト

主催: 東京湾再生官民連携フォーラム

募集期間: 令和3年8月5日～9月23日

審査員: 稲田 眸子いなか・ぼうし 本名(勉) 審査委員長／あらくさ句会指導講師/
平成9年5月「少年」を創刊主宰。日本文藝家協会会員、俳人協会幹事、
俳人協会埼玉県支部代表世話人、三郷市俳句連盟会長。

來生 新 審査委員／東京湾再生官民連携フォーラム企画委員 議長
放送大学名誉教授 横浜国立大学名誉教授、法学者

大浦 佳代 審査委員／東京湾再生官民連携フォーラム 監事

審査基準: 選句のポイント

- ・ユーモア感覚が表現されているか
- ・日常の喜怒哀楽が表現されているか
- ・社会風刺が表現されているか
- ・東京湾のテーマが表現されているか
- ・選者の心に響く作品か

「東京湾の日・大賞」 1 作品 (記念品贈呈)

秀作 3 作品 (記念品贈呈)

佳作 6 作品 (記念品贈呈)

合計 10 作品

・ 稲田審査委員長 選評

東京湾の日・大賞

鰻より 穴子が美味え 孫三歳

廣木 信子 滋賀県 専業主婦（主夫）

〈評〉「土用の丑の日には鰻を食べよう」という御仁いるが、東京湾では勝手に違う。「土用の丑の日には穴子を食べよう」が常識らしい。そのことは三歳の子供でも知っている。

江戸っ子が使う江戸言葉は「てやんでえ」「べらぼうめ」「べらんめえ」「あたぼうよ」が有名。そしてこの句によって「鰻より 穴子が美味え」も加わった。その小気味よさに感服する。

「東京湾の日」の川柳コンテストの大賞を飾るふさわしい作品。この句が大賞になるのは「あたぼうよ」と、三歳のお孫さんが啖呵を切ったとか、切らないとか。べらんめえ…。

秀作

江戸前の にぎり五巻で 諭吉消え

平岡 清嗣 大阪府 無職・家事手伝い

〈評〉その昔、「五貫のちゃんちき」と言われた江戸前の握り鮓の一人前。祭囃子の太鼓のバチを指す「ちゃんちき」のかんぴょう巻を頂点に置き、さあ召し上がれ。もはや一万円のことを指すとき、「諭吉」と呼ぶこともあるほど、一万円札といえば福沢諭吉。「江戸っ子は宵越しの銭は持たぬ」との諺のように、美味しいものには諭吉さんが次々と消えてゆくのだ。

寿司の数え方は一貫、二貫が一般的である。ところがこの句は「貫」を「巻」と表現。江戸名物であった「浅草海苔」の巻物を意識したのであろうか。なかなか洒落ている。

潮干狩り クラゲの洗礼 子から孫

白石 雅義 千葉県 無職・家事手伝い

〈評〉東京湾では四、五月に赤クラゲが大繁殖する。そのクラゲは名前からも分かるとおり、傘が赤っぽい色をしており、その美しさについて触りたくなくなってしまう。

赤クラゲに刺されると火傷のような強い痛みを感じ、患部はミミズ腫れや水ぶくれになってしまうから要注意。そのことをお爺ちゃんから聞いてはいるが、子ども達はつい触れてみたくなるのだ。「クラゲの洗礼」とは言い得て妙。

江戸前と 聞いたら値段 納得す

馬場 美江 大分県 無職

〈評〉ふらりと入った鮎屋。お品書きの最上段には「江戸前〇〇千円から」と書かれている。サラリーマンの身であれば、「松〇〇円、竹〇△円、梅△△円」の梅のランクに目がいつってしまうのが哀れ。板前さんから、江戸前の蘊蓄を聞きながら「なるほど、なるほど…」と頷くのであるが、注文したのは「梅△△円」であった。トホトホ。

佳作

ゆりかもめ 飛ばずに走る 東京湾

東海林 雄一 埼玉県 会社員

〈評〉ゆりかもめは、赤いくちばしと足がきれいな小型のカモメの仲間。水上に群がる姿は白い花が一面に咲いたよう。都民の鳥として選出されている「ゆりかもめ」は都民にとっては親しみのある鳥なのである。そんなこともあり、東京湾を巡る新交通の愛称は「ゆりかもめ」。

地面 10m程の高さを走行する「ゆりかもめ」の沿線にはオフィスビルや高層マンションのほか、パレットタウン、日本科学未来館、東京ビッグサイトなどの集客施設が林立。その中をカモメのように回遊としている。その様を「飛ばずに走る」と揶揄した句。

東京湾 まさか日比谷も 湾だとは

田中 和美 神奈川県 無職・家事手伝い

〈評〉家康が秀吉に命じられて江戸に入った時は、現在の東京駅と皇居の間には、日比谷入江と呼ばれる浅海があった。1603年、征夷大將軍に任ぜられた家康は、諸侯に命じて、外濠と堀割を掘削し、日比谷入江を埋め立てた。現在の日比谷の原型である。

そんな史実がNHK総合の『ブラタモリ』で紹介されていた。それを見ながら呟いた言葉が「まさか日比谷も湾だとは」…。「トレビア〜ン」と感嘆したに違いない。

平目釣る スマホで見れば 鰈かな

渋谷 康弘 神奈川県 無職

〈評〉見た目がそっくりの平目と鰈。「左平目に右鰈」と言われ、背鰭を上にして置いたとき顔が左側に来るのが平目、反対に右側にくるのが鰈。平目を釣り上げたつもりだがどうも違うようだと思ふコンピューターが囁く。スマホをググってみる。「あれっ、鰈じゃないか。平目の釣り場と言われてやってきたのに…」。この句の背後には社会風刺が感じられる。

実は簡単な見分け方がある。鰈の口は大きく、鋭い歯が両あごに並んでいるが、鰈は細いおちょぼ口。上あごにしか歯がない。口の特徴から、鰈をオオクチ、鰈をホソクチと呼ぶ地方もあるので覚えておくとよい。

東京湾 育む自然に 金メダル

山野 大輔 大阪府 会社員

〈評〉2021年7月下旬、東京湾で男子トライアスロンが行われた。会場となった東京湾の夏場の色は茶色っぽくなる。「あれでは選手がかわいそう!」「あんな汚れた海を映して大丈夫?」といったコメントがネット上を賑わせた。飛び込んだ選手を包む茶色い飛沫。目を覆うばかりである。

かつての東京湾は広大な干潟をもっていて、魚介類の宝庫であった。このような東京湾の再生活動にこそ、金メダルをあげたいもの。この風刺の眼に共感する。

ゴジラ用 プライベートビーチ 東京湾

馬場 和義 大阪府 専業主婦(主夫)

〈評〉浮世絵にも描かれているように、かつて東京湾には広大な干潟があり、古くから貝や海苔の養殖業が盛んであった。人々の生活は豊かな生物を育む干潟に支えられてきた。ところが、経済成長のためと嘯きながら、東京湾を大規模に埋め立て、生活雑排水を垂れ流してきた人間達。その無残な姿は、ゴジラが東京湾にやってきて、破壊を繰り返した爪痕のようだ。

東京湾の再生の目玉として大規模なビーチが必要、それも半端ない大きさのビーチ。「そうだ、ゴジラ用のプライベートビーチを造ろう」と呟く人間達。壊したのも人間、再生しようとするのも人間。何とも皮肉。

江戸前を フジテレビ前と 直される

東海林 雄一 埼玉県 会社員

〈評〉江戸前は、文字通り「江戸の前方」のこと。「江戸の前面にある海」を指したことから、江戸の近海で獲れる新鮮な魚介類を「江戸前」と称するようになった。

お台場の人気の観光スポットといえば「フジテレビ」。絶景を楽しめる球体展望室や芸能人気分を味わえる体感型展示エリアなど見どころ満載の館となっている。その「フジテレビ」の前のバス停が「フジテレビ前」。思わず吹き出してしまうような語呂合わせ、ユーモア感覚抜群の句である。

以上